

第2回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会 会議録

1 日時

2022年8月3日(水) 午前10時から午後11時45分まで

2 場所

愛知議会議事堂1階ラウンジ

3 出席者

來田享子(座長)	井澤悠樹	伊藤央二	大勝志津穂
大竹正芳	小島寿文	高橋淳一郎	寺田恭子
平井克明	藤嶋典弘		

(欠席委員：田中希代子、中嶋和男、淀川悦子)
(会長除き 50音順、敬称略)

4 傍聴人等

なし

5 議題

- (1) 次期愛知県スポーツ推進計画(仮称)の骨子案について
- (2) その他

議題および議事の要旨

事務局 (司会)

それでは、皆様お揃いになりましたので、ただいまから第2回次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。私は司会を務めます、愛知県スポーツ局スポーツ振興課担当課長の市川でございます。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、皆様にはマスクの着用や会場での手指消毒にご協力いただくとともに、座席の距離の確保、換気の徹底、マイクの消毒など対策を徹底いたします。

開会にあたりまして、愛知県スポーツ局長の成瀬から挨拶を申し上げます。

事務局 (成瀬局長)

愛知県スポーツ局長の成瀬でございます。今日はアジア大会のロゴが付いたポロシャツを着てまいりました。未だ正式なライセンス契約を結んでいないものですから、一般販売は行っておりませんが、ライセンスとかマーケティングといいますと、來田座長が先日テレビでコメントされているのを拝見しました。オリンピック・パラリンピックもそうなんですけれども、この面は非常に難しい問題があります。

今、ご議論いただいております次期計画については、アジア・アジアパラ競技大会が大きな柱になるのは間違いないと思っております。そういった点で、5月に開催しました策定委員会では、皆様から様々なご意見をい

ただいております。今回、皆様からいただいたご意見を踏まえまして、次期計画の骨子案を作成してまいりました。アジア・アジアパラ競技大会に限らず、できるだけ新しい施策を入れていきたいということで、今回の資料には、現行計画にはない、新しい施策について赤字で書かせていただいております。

今後、予算など色々な制約がありますけども、できる限り新しい施策を入れていきたいと考えております。今後、財政当局などを説得しなければいけませんので、皆様にはですね、そういったアイデアやヒントをできるだけいただきたいと思っております。今回の議論を踏まえて、さらに検討を重ねまして、9月には愛知県スポーツ推進審議会において、骨子案をご審議いただきたいと考えております。

本日も忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたしまして、挨拶に代えさせていただきます。よろしく願いいたします。

事務局
(司会)

本日は、座長をお願いしております中京大学スポーツ科学部教授の來田享子様をはじめ、10名の委員の方にご出席をいただいております。

至学館大学健康科学部教授の高橋淳一郎様は、今回初めてのご出席となりますので、ここで紹介をさせていただきます。なお、名古屋グランパスエイト広報コミュニケーション部の田中希代子様、愛知県社会福祉協議会障害者スポーツ振興センター所長の中嶋和男様、愛知県スポーツ推進委員連絡協議会理事の淀川悦子様につきましては、本日は所用により欠席でございます。

それでは、これより先の進行は座長にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

來田座長

皆さん改めましておはようございます。大変暑いですね。ここに来る途中も、子どもたちはスポーツをして大丈夫なのかなと思っていました。どのようにスポーツ活動をするんだろうと心配になるほどの暑さの中、ここに来ました。大学の先生方は定期試験期間だったり、あるいはこれから夏休みに入るということで、スポーツ関係の行事が盛んになってくると思います。そのような忙しい中で本日ご出席いただきまして、ありがとうございます。

先ほどスポーツ局長から大変心強い言葉をいただいたな、というふうには思っております。新しい施策をどんどん入れていきたい、良いものにした、という意欲を示していただいたことは、ここの議論にとっても素晴らしいことだと思います。ぜひ活発な議論をしていきたいと思っております。よろしく願いいたします。

今日の進め方なのですが、お手元に資料があります。後ほど事務局から説明していただきますけれども、次期計画を作っていくための問題意識、それから理念、あるいは社会とスポーツがどういうふうにつながっていくのかというビジョンですね、これを最初に議論をして、その上で、理念やビジョンに沿った形で基本施策が作られているのかという観点で、2点目の議論をしたいと思っております。

前回と同様に、基本的には順番で全ての方にご発言いただく機会を設けたいと思っておりますが、しかし言葉のキャッチボールによってクリエイトされ

ていくこともあると思いますので、もしどなたかご発言なさったとき、その件について追加でご発言があれば、ぜひどうぞ遠慮なくいただければと思います。

それでは資料の説明について、よろしくお願いいたします。

事務局

(山肥田課長)

スポーツ振興課長の山肥田でございます。よろしくお願いいたします。それでは資料1をご覧くださいませでしょうか。資料1については、5月26日に開催いたしました第1回策定委員会における議論を踏まえて庁内で検討を重ね、次期計画の骨子案を作成したものでございます。

なお、1ページから3ページにつきましては、前回の策定委員会でご議論いただいた部分でございますので、要点のみ説明させていただきます。それでは1ページをご覧ください。上段の基本的事項の「1 策定趣旨」につきましては、現行の地方スポーツ推進計画の計画期間が今年度末に終了するため、国の第3期スポーツ基本計画を参酌して、今後の本県のスポーツ振興に向けた新たな計画を策定するものでございます。

「3 計画期間」につきましては、国のスポーツ基本計画の計画期間等を踏まえて5年間ということにしております。

次にページ中段「検討の視点」でございます。1は「現行計画「いきいきあいち スポーツプラン」の評価」、2は「今後の社会経済の展望」、3は「2030年までの主なスポーツ関連の動き」について整理しております。今回の計画策定においては、メガスポーツイベントや県の大型プロジェクト、国の政策目標などを見据え、中長期的な視点で検討を進めていく必要があるものと考えております。

ページをおめくりいただきまして、2ページ目と3ページ目につきましては、昨年度実施した県民のスポーツ実施状況やスポーツに関する意識等を把握するためのアンケート調査の概要を整理しております。

次に4ページをご覧くださいませでしょうか。このページから新しい議論を整理したものとなります。次期計画の策定にあたっての基本的な考え方と、次期計画における基本理念や目指すべき姿、そして目指すべき姿を実現するための基本施策を整理させていただいております。

4ページの左下、次期計画の基本理念は、「アジア大会を活かし、スポーツの力で元気で活力のある愛知の実現」とし、目指すべき姿として、「誰もが生涯にわたりスポーツを楽しみ、スポーツにより人と人とがつながる愛知」、「世界で活躍するトップアスリートを継続的に輩出し、夢や感動を分かち合う愛知」、「スポーツを通じて世界から人を呼び込み、交流を生み出し、持続的に成長する愛知」の三つを描いております。

また、ページの右下になりますけれども、目指すべき姿を実現するための基本施策として、5つの基本施策を体系的に整理しております。1番目が「多様な主体におけるスポーツの機会創出」、2番目が「子どものスポーツ活動の充実」、3番目が「トップアスリートの育成」、4番目が「アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」、5番目が「スポーツによる地域創生、まちづくり」でございます。

1枚おめくりいただきまして、5ページ以降は、各基本施策の具体的な取組内容を整理しております。なお、先ほど局長からも説明がありました

が、各基本施策の下の「具体的な施策の例」につきまして、現行計画に記載がない取組については赤字で整理しております。ここが、新しい方向性のところだということでございます。

まず、ページ上段の「Ⅰ 多様な主体におけるスポーツの機会創出」についてでございます。具体的な施策としましては、「SNS等を活用した情報発信」や「企業と連携した健康づくり支援」などからなる、「スポーツ人口の裾野拡大」、「地域や大学、企業との連携や、指導者・支援者の確保・育成等を通じた体制整備」などからなる、「障害者スポーツの推進」、「県立スポーツ施設、県立公園、学校施設・設備等のさらなる充実、利活用促進」などからなる、「地域のスポーツ環境の充実」といった取組を整理しております。

次に、「Ⅱ 子どものスポーツ活動の充実」についてでございます。具体的な施策としまして、「日頃の身体活動の充実」や「運動・スポーツに対する興味関心の喚起」などからなる、「児童・生徒の体力の向上」、「研修などによる教員の指導力向上」などからなる、「学校体育・スポーツの充実」、「段階的な地域移行に向けた取組の推進」などからなる、「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」といった取組を整理しております。

1 ページおめくりいただきまして、6 ページをお願いします。「Ⅲ トップアスリートの育成」でございます。具体的な施策としては、「あいちトップアスリートアカデミーにおける地元出身選手の発掘・育成」などからなる、「トップアスリート・パラアスリートの発掘・育成」、「国際大会に向けた県強化指定選手への遠征費や競技用具等の支援」などからなる、「トップアスリート・パラアスリートの強化・活用」、「国民スポーツ大会などへの選手派遣」や「県代表選手の競技力向上」などからなる、「国民スポーツ大会への選手派遣等」といった取組を整理しております。

続いて「Ⅳ アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」でございます。具体的な施策としまして、「競技会場・選手村等の整備」や「テスト大会など、機運醸成に向けた競技大会の開催」などからなる、「開催に向けた取組・機運の醸成」、「アジア各国との交流の推進」や「大会における「Made in AICHI」のショーケース化」などからなる、「大会を活用した地域活性化」、「障害への理解促進」や「競技会場等におけるバリアフリー・ユニバーサルデザインの推進」などからなる、「共生社会の実現への貢献」といった取組を整理しております。

1 枚おめくりいただきまして、7 ページをお願いします。「Ⅴ スポーツによる地域創生、まちづくり」でございます。具体的な施策としましては、「あいちスポーツコミッションによるスポーツ大会の招致・育成」などからなる、「全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成」、「愛知県新体育館や豊橋市新アリーナなどスタジアム・アリーナ整備、賑わい創出」などからなる、「スポーツの成長産業化」、「プロスポーツチームの発信力を活かした社会課題への貢献、シビックプライドの醸成」などからなる、「プロスポーツチームとの連携・協働」といった取組を整理しております。

最後となりますが、計画の推進としまして、成果達成目標や進捗管理指標を活かした進捗管理、多様な主体との連携・協働、次期計画の周知・広

報、県スポーツ推進審議会を活かした効果的な推進を挙げ、様々な視点から、また様々な主体を巻き込みながら、次期計画の目指すべき姿の実現に向けて取り組んでまいりたいと考えております。

資料1の次期計画の骨子案についてのご説明は以上となります。

次に資料2につきましては、第1回策定委員会においていただいたご意見を整理させていただいたものでございます。こうしたご意見につきましては、今回ご議論いただく骨子案に可能な限り反映しておりますけれども、今後検討を進めます素案にも反映してまいりたいと考えております。

次に資料3をお願いいたします。資料3につきましては、本日ご欠席の田中委員、中嶋委員、淀川委員のご意見を紹介させていただいております。名古屋グランパスエイトの田中委員からは、「特に子どもの体力水準についてはチームとしても問題意識を持っており、チームとして貢献できればと考えている」、「スポーツ実施率を高めるためには、スポーツを「みる」ことを通じて、スポーツに対する興味・関心を持っていただくというアプローチも有効」といったご意見をいただいております。

県社会福祉協議会の中嶋委員からは、「スポーツ大会や教室などが開催される場所が地域に近いほど、参加に当たっての障害のある方やその家族の心理的なハードルが下がっていくと思う」、「健常者向けに開催されていた大会やイベントなどが障害者も参加できる形となり、誰もが参加できるようになれば良い」といったご意見をいただいております。

県スポーツ推進委員連絡協議会の淀川委員からは、「親子で一緒に参加できるイベントがあれば、保護者も気兼ねなく参加することができ、効果的」、「誰もが簡単にできる運動・スポーツを通して、県民のスポーツの実施を促進していくというアプローチもある」といったご意見をいただいております。

最後に参考資料といたしまして、国の第3期スポーツ基本計画の概要資料をお配りしております。

長くなりましたが、本日の資料についてのご説明は以上となります。よろしくをお願いいたします。

來田座長

ありがとうございました。

それでは、1つ目のディスカッションとして、主として資料1の4ページになると思いますが、基本計画策定にあたっての問題意識について、基本的な考え方でありますとか、あるいは理念が図として示されており、右側に基本施策があるのですが、この理念と施策の関係性などについて、意見交換を進めてまいりたいと思います。

個別の基本施策についての議論は、この後に回すという形で意識をしていただければと思います。

それでは順番に、井澤委員からよろしく申し上げます。

井澤委員

井澤でございます。資料など、ご準備いただきましてありがとうございます。今ご説明いただいた中で、前回の会議から基本的な部分は押さえつつ、中身を一部改めていただいたというところなのですが、前回のこの会議でもお話をすれば良かったかなと思っているのですが、基本理念に「アジア大会を活かし」というところが冒頭にきて、これが今回の計画、今後

5年間の一番の肝になってくるのかな、というところはありませんので、この基本施策IからVの中で、このアジア大会を活かして、これらをどう改善していくのかという連動性みたいなものが少し見える部分と見えない部分があるのかな、という点が少し引っかかっているところです。このあたりは他の委員の皆様からも、色々なところでお話をいただいているかと思いますが、やはりそこが一番のポイントになってくるのかなと、資料を拝見して改めて感じた部分です。以上です。

来田座長
伊藤委員

ありがとうございます。それでは伊藤委員、お願いします。

私も井澤委員のご発言に近いのですが、基本理念のところ、「アジア大会」という言葉と「愛知」という言葉は入っているのですが、多分コアになる「スポーツの力で元気で活力ある」というところは、言ってしまえばありきたりな感じですね。もう少しこの辺を愛知県らしくユニークな形にできないのかなあ、というのはすごく感じました。ちょっと厳しい言い方ですが、どこにでもありそうな理念かなと思ったことですね、周りに3つありますけれども、私がこの3つを見る限り、この愛知県の目指すべき姿というのが、人にすごい焦点を置かれているのかなと感じます。例えば、“人と人がつながる”とか、“トップアスリート輩出”とか、“人を呼び込む”というところ、全て人が関わっているので、ここが愛知県のユニークなポイントになっていくのかなと考えたときに、全体の基本理念のところあまり見えてこないというのが、私の個人的な感想になります。

あともう一点、1ページ目に戻りますが、現行の計画の「いきいきあいち スポーツプラン」は2013年からなので、その当時はKPIみたいな考え方はなかったのかもしれないのですが、最初の目標は低下傾向が継続で、あとは目標値には至っていないと。つまり「いきいきあいち スポーツプラン」がうまく回らなかったと。この点に関しては、だからこそ、やはりスポーツの機会の確保とか、引き続きスポーツに楽しむ環境の整備が必要なんだというのは分かるのですが、具体的にどういう施策をして何が駄目だったのかというところを、もう少ししっかりとレビューする必要があります。おそらくこのスポーツ機会の確保とスポーツ環境の整備は、「いきいきあいち スポーツプラン」からも施策として挙げられているはずなので、同じことをずっとやっても多分駄目なものは駄目なまままで終わってしまうような可能性があります。“実際にこういったところが良くなかったから、別の視点からスポーツの機会を確保します”とかだったら分かるかな、というふうに思います。以上です。

来田座長

大変興味深いご指摘だと思います。後ほどまた触れたいと思います。

大勝委員

大勝委員お願いします。

二人の委員のご指摘は、私も同感するところがあります。グランパスの方のコメントに「みる」スポーツのことがあると思うのですが、スポーツを「みる」視点が全体にないのかなと。アジア大会は大きなイベントですので、この5年間の中では注視すべきだと思っています。そのため、掲げることは大事だと思いますが、やはり井澤委員が言われたように、基本施策のところアジア大会が取り上げられているので、アジア大会を見て変

わるような、もう少し「みる」視点というものを施策の中に入れてもよいのかなと思いました。以上です。

來田座長

他の委員とも共通する視点でご発言いただいたと思います。あと、確かに「みる」視点がないですね。私もちょっとそれを感じていました。

では大竹委員、お願いします。

大竹委員

名古屋商工会議所の大竹でございます。ご説明ありがとうございます。資料1の4ページのところの基本理念や目指すべき姿、基本施策等についての意見ということだと思っておりますが、手短かに感じたことを申し上げますと、県の次期スポーツ推進計画を企業の関係者が見て、“これはやらなきゃいけないな”、あるいは“期待されているな”というところをどう表現するのかというのが大事だと思います。そういう部分で、例えば基本的な考え方の5つ目のところに、「関係部局や市町村をはじめ、企業、大学、関係団体」と書いていただいているのですが、その中でもやはり地元企業がちゃんと関わって協力をさせていただき、支援をさせていただくという姿勢がすごく大事なのではないかと思います。スポーツというと、どうしても力のある大きな企業、東京に立地している企業、どうしてもそちらになってしまうので、やはり地元企業が県の計画のもとに関わらせていただいて、経済の活性化が図られると、そういう視点をぜひ入れていただきたい。表現はおまかせしますけれども、盛り込んでいただけるとありがたいなど、こんなふうに思っております。

それからもう一点。基本施策のところでも5つ柱がございますが、最後の「V スポーツによる地方創生、まちづくり」について、この項目だけ見ると、どの県でもありうる表現かなと思うので、やはり愛知県は製造業が集積しており、日本経済を引っ張る大きなエリアだと思いますので、“スポーツを通じてさらに経済の活性化が図られる”とか、“地域が活性化する”とかですね、この計画のもとにさらにスポーツを通じて発展していくんだなど、そういうイメージが持てるようなものであるとよろしいのかなと。こんなふうに思っております。以上です。

來田座長

そうですね、企業の方などが、そこの組織に所属している立場から、この施策を見て“そうだな”とか“これは自分事のできるな”と思っただけのような施策がすごく大事だと私も思いました。

それでは小島委員、お願いできますでしょうか。

小島委員

この4ページの基本的な考え方で、少し具体的話になってしまうのですが、2つ目に記載されておりますけれども、子どもの体力水準が低い水準に留まっていることが課題とされていると。それで、この子どもの体力水準を上げていくためには、まず小学校入学以前の段階で運動することとか、体を動かすことが苦にならないとか、好きだというふう感じられるようにしていくことが必要であると私は感じております。

そのためには、学校だけでなく、また家庭に任せるだけでなく、やはりここに書かれているように「地域」という言葉がキーワードなのかと思うのですが、地域で楽しく運動できる環境が必要でありますので、「身近な地域でスポーツに親しむことができる環境づくり」と書かれていることは大変良いかなと感じました。

先ほど伊藤委員からご指摘がありまして、具体的にどうしていくかというのが今後課題になるかと思いますが、「地域」というキーワードを入れていただいているのは良いと感じております。以上です。

来田座長

そうですね。幼少期のことはあまり入っていないかもしれませんが。具体的な施策のところでも少し見ていく必要があるかなと思いました。ありがとうございます。

藤嶋委員

それでは藤嶋委員、お願いしてよろしいですか。

基本的な考え方のところを見ていくと、色々と項目がたくさん上がっていて、これまでもそうだったのですけれども、やはりこういった施策なり、そういったものがバラバラに展開されることが多くてですね。こういったところのつながりといいますか、例えばスポーツ行政の一元化と言っても、実は教育委員会が所管する部分である学校スポーツについては一元化が図られていないという面もあって、特に部活動の地域移行については、当然連携してやっていかなければいけないというところであって、そういった部分というのは他にも多分あるのだろうと思います。

私どものところでも、この中には、理事をお務めいただいている方もおられますし、私どもの事業に講師としてご参加いただいている方もおられます。色々な方と関わりを持ってやらせていただいているところなのですが、そういったような形で、企業や大学といったところから学校も含めて、色々な施策を効果的に実施するために、つながりをうまく活かしていくと良いのかなというふうに思います。

私どももその中に当然入って、どうやって私達がそれに貢献できるのかということも大事なかなというふうに思います。以上です。

来田座長

施策がⅠからⅤと並んでしまうとバラバラになりがちということですよ。それらを統合して検証して、課題を発見して、そして次につなげていくというふうな、発展していく形の図柄になっていないというところがあるのかなということですよ。重要なご指摘だと思います。

では平井委員、お願いします。

平井委員

基本的な考え方の部分で、意見を述べさせていただきます。

2つ目の菱形のところ、運動部活動の地域移行ということをしかりと記述していただいて本当にありがたいなと思います。中学校の部活動関係の立場としましては、このことがうまく円滑に進むことが本当にこの5年間の課題だと捉えています。

関連して、1ページに記載がございましたが、愛知県は2020年頃をピークに人口減少が始まるということですが、現状としまして、やはり地域において人口自体は減っていないものの、少子化の進行により、例えば中学校の部活動でも、もう単独では部活動が成立しないというところがこれからどんどん出てくると思います。少子化に加えて、そこに関心を持つ競技人口が減ってきているという、こういった問題も出てくるかと思えます。この文脈の中で地域移行ということがやはり絡んでくる可能性が極めて高いと思います。次期計画の計画期間の5年間では、それが致命的なところになるというふうには考えにくいかと思いますが、余力のあるうちにそういった環境整備、環境づくりというところをやっていかない

と、5年経ったときに、もう立ち行かないところからスタートしては遅すぎるということを非常に懸念している、そんな感想を持ちました。以上です。

来田座長

今のご提案というのは、やはり県の少子化対策を進めつつ、スポーツ政策を進めるといふような循環が必要だと、そういう理解でよろしいですか。

平井委員

はい。このままいったらそうですね。

来田座長

ありがとうございます。それぞれの施策がスポーツの中だけで完結することというのは、実は少ないと思います。スポーツは社会の一部ですので、県の施策との関連性をどのように見えるものにしていくのかというのは、この基本理念においても私は結構重要なことなのではないかなと思います。そういう意味では、どうでしょうか。少子化対策は愛知県の場合はどこでどういうふうに進められていますか。

事務局

(山肥田課長)

少子化対策は、基本的には福祉を担当している部署において、要は子育て支援というような考え方で行われているものと、少子化というわけではないのですけれども、できるだけ人に来てもらう、移住してもらうというような取組は、政策企画局の地方創生課において行っているところです。子どもをできるだけ増やすというのと、多くの人に愛知県に引っ越ししてもらうという、2つの側面から取り組んでおります。

来田座長

県の取組として、好事例を出しているところがいくつかあるかなと思いますが、そういう好事例について次回、資料を出していただいて、私達が施策をつくっていくときの手がかりにできるようにしていただけるといいかなと思います。

それでは、寺田委員お願いします。

寺田委員

今までの皆様のいろいろなご意見をお聞きして、なるほどと思っているのですけれども、最初に伊藤委員が言われた、人とのつながりがポイントだということで、私は障害者スポーツを中心に研究をしていますが、やはり障害者の人たちがスポーツに関心がない、無関心層が多いということが分かりました。しかも、サポートが必要ないという人の数が多かったのですけれども、それはサポートできる人が少ないという背景があるからこそ、そういう結果になるのかなと思っていたり、色々なことを考えると、今回のこの目指すべき姿と、それから基本施策の中で、基本施策のⅠからⅤの中の一番目として、「多様な主体におけるスポーツの機会創出」という項目があって、これがまさに障害のある人たちのスポーツの参加というのを含んでいると思います。前回、それこそ各委員が外国籍の方とか、LGBTQの方とか、もっと考えると、例えばトップアスリートやセカンドキャリアを持っている方々とか、いろいろな人たちは全部多様な主体なんですよ。ですので、今までの多様な主体におけるスポーツの機会というと、多様な主体がここにあって、その人たちがとにかくスポーツに参加するようになるという、障害者スポーツの場合は障害者スポーツに特化して、その人たちがスポーツに参加するように何か考えるというか、まとまりごとに個別にアプローチしていくというか、そういうような感じがしています。そうではなくて、例えば多様な主体がつながって、スポーツの機会を創出するという、もう少しムーブメントというか、全体がつながって動いていくん

だということを考えていくのはどうなんだろうかというふうに思いました。

ですので、「多様な主体におけるスポーツの機会創出」というのは、ある意味全体を網羅しているのかなというふうにも思いました。もっと動きが欲しいというか、“動いていくぞ”という具体的なものがこの理念とか施策の中に、もう少し見えるといいかなと思った次第です。

來田座長

ありがとうございます。この基本施策をⅠからⅤまで同じように並べるのではなくて、“多様な主体がつながり、スポーツに関わる機会を創出する”のような表現にして、それをベースにしながら、ⅡとかⅢとかⅣを作っていく、そういう発想ですよ、今おっしゃったのは。

寺田委員

当たり前のように思っていたのですけれども、少し記述を変えるだけでも全然違います。

來田座長

そうですね。最初の井澤委員のお話にもあったのですけれども、やはりこれらの関連性みたいなものが見える形で施策が整理できると良いだろうなと。今のお話でいうと、Ⅰは最もベースになるところ。それがあって初めて、ⅡとかⅢとかⅣとかⅤ、少し変わるかもしれませんが、それらが動いていくのだという、そういう印象になっていくと良いかもしれないですね。

次に簡単な自己紹介も含めまして、高橋委員お願いします。

高橋委員

至学館大学健康科学部の高橋と申します。よろしくお願いいたします。水泳を専門にやっております、監督もしております。また、後で意見を言わせていただくのですけれども、「あいちトップアスリートアカデミー」の方でも委員を務めさせていただいております。今後ともよろしくお願いいたします。

委員の皆様のおっしゃったところで、なるほどなと思いつつ私の考え方をまとめていたのですけれども、基本理念のところをいくと、やはり真ん中にある「アジア大会」ということがキーワードと考えたときに、この3つのものを時間軸で考えると、まず一番左下に地元の選手を出すという、選手強化というところを考えなければいけないということになりました。また右下のところ、アジアのトップアスリートが集まるような大会にしていく、施設整備も含めてですね。さらに一番上のところで、その大会を見たり体験したりということから、生涯スポーツまでつなげていければいいのかなと、そういう時間軸で見ました。

その中で基本施策の方でいきますと、今、私が携わっております「あいちトップアスリートアカデミー」というところで、愛知県からトップアスリートを輩出しようと活動している中で感じているところはですね、先ほど企業や大学との連携という話が出てきたのですけれども、私が常に感じるのは、県と競技団体との連携ですね。県の方で“こういうふうにして”としても、結構強い競技団体も県内にあるものですから、その競技団体は全く別の考え方を持って強化をしているということはよくある話だと思います。

ですので、競技団体と連携して、トップアスリートの育成というところまでつなげていければ良いかなと思いつつ聞いていました。以上です。

來田座長

はい、ありがとうございます。この理念に沿って、アジア大会を具体的にどういうふうにイメージしながら、施策として広げるのかというところをご説明いただいたかと思います。

一巡はしたのですけれども、他の委員の方のご意見を聞いて、これも言っておいた方がいいなというようなことがありましたら、ぜひキャッチボールをしたいと思いますが、いかがでしょうか。

寺田委員

先ほど小島委員からお話いただいた、小学校入学以前の子どもからどんどん運動をしていくようにというところで、確か愛知県では、公園を充実したりとか、そのようなことがあったと思うのですけれども、やはり幼稚園教諭だとか、保育園の保育士であるとか、そういう人材の育成というか、そういった方々がスポーツや運動への理解をもっと深めていただく必要があると思います。一方で、やれることがなかったり、やれる場所がなかったりとかいろいろ事情もあると思います。そういったところで幼児期の子供たちを育てる人たちへの支援や、子どもたちがスポーツや運動ができるようにするための環境を整えていくための支援、具体的にうまく言えないのですけれども、そういったところも非常に重要なのではないかと思います。もちろん、文部科学省の方で、子どものためのいろいろな施策というのは言われているのですけれども、なかなか現場でそれが思うように進んでいかないという現状を見ているものですから、その辺りで保幼小の連携を、先生方も連携しながらムーブメントを作っていけるといいのではないかと感じました。

來田座長

保幼小の連携、人を育てる視点を作ることによってムーブメント化していくということですね。ムーブメント化していかないと、変化が生じにくいような気がします。

他にはいかがでしょうか。

藤嶋委員

高橋委員の方から、競技団体の強化というところの話が出ましたが、私も県のトップアスリートアカデミー事業のタレント発掘に携わっています。どちらかというと、今掘り起こされていないタレントを発掘して、トップアスリートに育てていくというところで、ある意味ではトップレベルに到達するまでの道筋の中では、メインストリームではないところだと思うのですね。

メインストリームというのは、やはり競技団体が個別に良い選手を育てるところにあって、競技団体がほとんどのトップアスリートを育てているというふうには思っています。先ほど高橋委員が言われたように、競技団体が今強化している選手を大切にするというところがメインになってくるのは当然のことだろうと思っていますので、そういう意味で、今も競技力向上事業をやっていますので、そういったところもより啓発させていただいて、目を向けていただけるといいのかなと思っています。よろしくお願ひします。

來田座長

アスリートの支援については、やはりトップアスリートになっていくためにお金がすごくかかります。それで補助金も大事だとは思いますが、多様な主体のスポーツへの参加を支援し、そのために補助金を充てていくということと、トップアスリートの育成のためにお金を出すという

ところがどうしてもぶつかってしまいがちだと思います。

大阪市が行っている競技力補助事業の審査員をさせていただいたのですが、この事業はオリンピック・パラリンピック前に新しい形をめざそうという意図がありました。この事業では、トップアスリートの支援に主眼を置いていることに加え、申請する際には、その支援がどういう波及効果を及ぼすものであるかということ申請書に記入することを求めています。たとえば支援するアスリートたちと子どもたちが交流する機会を作ったり、トップアスリートへの指導の経験をより一般的なスポーツの場に普及・伝達する機会を設けるとか、そのような循環を作るような形での事業になっている点が非常に良かったと思っています。視点を変えることで、一見相反するものであるように見えても、そうではないものにもできる可能性もあると思います。これは具体的な施策に関することにはなりませんけれども、視点の持ち方かもしれないですね。

他よろしいですか。それでは伊藤委員、お願いします。

伊藤委員

2点ありますが、まず1点目はですね、大竹委員の発言にありました基本施策の「V スポーツによる地方創生、まちづくり」で、どうやって企業が関わっていくのかというところで、両方ともウィンウィンになるような関係ということを強調されていたと思うのですけれども、前回もお話しましたが、昨年策定に関わった大阪府のスポーツ推進計画のとき、それも大阪商工会議所の方がおっしゃっていたのですけれども、その時にはスポーツと技術革新というところ、愛知県の資料にも入っていますけれども、力を入れていこうというところで、技術革新はスポーツに大きな変化をもたらす一面がありますが、スポーツを活かした新たな産業創出もかなり高まっていくはずだと。スポーツでこういうふうにしましょうというワンウェイではなくて、ツーウェイですね、好循環が期待できるというところをもう少し強調した方が良いのではないかと感じます。加えて、先ほど大竹委員がおっしゃられたとおり、そういうふうを書くことで企業側からもアプローチをかけやすくなってくる。企業側にもメリットが出てくるというところをやはり考えていかなければいけないかなというふうに思いました。

もう1点はですね、寺田委員がおっしゃられた、「つながる」というところなのですけれども、確かに「つながる」という言葉はすごく大切なキーワードだなと思ひまして。スポーツ庁が策定した第3期の基本計画ですね、この新しい計画の3つの姿勢にはやはり「つながる」という言葉が入ってきています。そういったところも含めて、何か愛知県は国の考えをもう一歩超えるような、「つながる」という視点を打ち出していくというのは面白い考え方かなと思ひました。以上です。

來田座長

はい、ありがとうございます。やはりこの基本施策の循環ですよね。循環と連関ですかね。これを見えるものにしていかないといけないなということは、おそらく多くの方が感じておられることかなというふうに思ひます。

他にありますでしょうか。

大勝委員

寺田委員が言われたムーブメントのような形にしていくということはす

ごく重要なことだなと感じます。計画だけ出されるより、やはり動きが見えるような形で出てくると、変な言い方ですけど“何か頑張っただけでやれそうかな”と感じていただく方が増えていくのかな、と思いました。その中で、先ほど寺田委員が言われたと思うのですが、最初にこの基本施策の中で書かれている一番上のものが、全体に通じていくものなのかなと思います。項目が縦に5つ並んでいると、どうしても並列に見えてしまう。つながりも見えない。おそらく国の第2期スポーツ基本計画では、好循環というキーワードがあったと思います。今回は第3期を受けてということになりますが、この施策にも好循環というか連携するとか、そのような見せ方があると、全体がつながって進められるのかなと理解していただけたと思います。一つ一つが区切られていると、別物のように見えてしまうので、見せ方も大事なのかなと思いました。以上です。

來田座長 この見せ方の件については、原案を作ってください中、事務局としてはいかがお考えでしょうか。

事務局
(山肥田課長) 見せ方のところは、確かにご指摘の通りですね。このように縦に並んでいると並列に、バラバラに見えてしまうというところがあるので、その関連性というものを、どういうふうに整理するのかは今後検討していきますが、工夫する必要があるなと思います。

その中で、今いただいた色々なご意見の中だと、Iがベースにあって、他につながっていくという視点が良いこと。あと、やはりアジア大会が色々なところに関わってくるので、どのように他の施策と結びつけていくのかという2つの視点があると思っています。先ほど出たムーブメントの話は、やはり4年後にアジア大会が控えており、ムーブメントを起こしやすいタイミングだなという気がしていますので、関連性をどのように絵にしていこうかなというのをこれから考えたいと思います。

來田座長 多分各基本施策のところでも議論となるとと思いますが、施策同士のつながりが見えるようになると、この先の5年間で好循環が作り出せるのかもしれないので、またそれを意識しながら議論をしたいと思います。

では時間のこともありますので、1巡目のディスカッションを終わりにしたいのですが、理念のところ「アジア大会を活かし、スポーツの力で元気で活力ある愛知の実現」と記されていますが、これはアジア大会が終わったらその部分を取るのですか。大会後はどうするようなイメージをお持ちですか。

事務局
(山肥田課長) 次期計画の計画期間の5年という、アジア大会が終わって、あと1年あるという状況になりますが、多分、レガシーが重要だという話は変わらないと思います。次期計画の5年間においてもレガシーが重要であると認識していますし、その次の計画における5年間も、アジア大会のレガシーをどう残していくのか、活かしていくのかという視点はそれほど変わらないのではないかと思います。

來田座長 そして“元気で活力ある愛知”、“元気で活力”、今ないのかな、と解釈される可能性もありますよね。だからそのあたりも、なんとなく引かかるというかですね、せっかく計画期間を5年単位にしたので、理念をもう少し具体化してもいいかなと思うのですよね。そうでなければ、10年、15年

先のところを見通した大きいものにするか、どちらかかなという印象があります。これも委員から出た意見の1つかなと思いました。

あと、人と人とのつながりのところで、先ほども意見が出ていましたけれども、それをすごく重視している書きぶりになっていて、それについてどなたも異議がないですので、この原案というのは、今、私達が必要としているものなんだろうと思います。素案を作成するに当たって、それを反映するような形で文章化していくと、もう少しピントが当たってきて施策とのつながりができるかもしれないなと思います。この点については、また練っていきたい、一緒に検討していきたいと思います。

一巡目の基本理念についてはよろしいでしょうか。後ほど思いつかれたら結構ですので、言っていただければと思います。

最初にスポーツ局長がおっしゃいましたけれども、いろいろな予算の限界とかそういうこともありますが、まず計画に入れてみるとということが重要だと思います。その中から今期ではなく次に引き継ぐものは何かを考えるというようなやり方をすれば良いかなと思いますので、足りないと思うものについてはどんどん今の段階では言っていただけたらと考えております。

ページがまたがっていて、議論しづらいところもありますが、“Ⅰについて”とか“Ⅳについて”という言い方でご発言いただけるとありがたいです。それでは、今度は逆の順番で進めていきたいと思います。

それでは、藤嶋委員お願いします。

藤嶋委員

はい、それではお願いします。まず1つ目がですね、Ⅰのところなのですが、特に私どもに関わるということでお話させていただくと、「地域のスポーツ環境の充実」のところ、「登録・認証制度を活用した総合型地域スポーツクラブの質的充実」と挙げていただきましてありがとうございます。現在52市町村で132クラブ、総合型地域スポーツクラブがありまして、そのうちの21クラブが今年度、登録申請をしていただいております。60程度が準クラブということで、登録に向けた努力、準備をしていただくというようなことになっております。

そういう意味ではですね、質的な充実を図るために何をすることになるのだろうかと思いますので、実際にどういう手立てをしていくかということ、よろしく願いできればなと思っております。

それから、前回私が申し上げました“スポーツ医・科学を活かした”というようところで、Ⅲの「トップアスリートの育成」のところ、「スポーツ医・科学の知見に基づく質の高いトレーニングの実施」といった文言も入れていただきましてありがとうございます。スポーツ医・科学の活用という面で、前回の策定委員会でそのような発言をさせていただいた後で、座長とも話をしたところで、なかなか今後スポーツ医・科学センターというものができるとことはまず考えにくいということがあります。ではどうするのだということで、お話をさせていただいたのは、今、愛知県の中でもスポーツに関わる学部を持たれる大学もあり、しかもその中で県と連携をしている大学もあるということですので、例えばそういった大学には施設もあれば、いわゆる科学的な取組をするような設備を持っているとい

うことがあります。それから、もっと広げていけば、プロスポーツチームもあれば、企業の中で非常に高いレベルのチームを持つ企業もありますので、そういったところと連携をしながら、科学的アプローチができるソフト事業として展開することはできないかと考えております。そういった形で、例えば、愛知県の代表選手に対して質の高いトレーニングを実施するようなアプローチで、競技団体のレベルアップを図るといようなことにつながってけると良いかなと思います。何か他人のふんどしで相撲を取るような形になってしまうようなところもあるのですが、そういった資源をですね、先ほども色々なつながりを大事にして、うまく連携していければということをお願いしたのですが、それと同じでですね、そういった資源を有効に活用していけるような施策を考えていただけると良いかなというように考えていました。以上です。

來田座長

最後の方にお話されたことについては、Ⅲの「具体的な施策の例」の一番下と関わってくるのですが、これだとスポーツ医・科学の活用というか、個別勝手に活用しなさいというふうに見えなくもないので。今、藤嶋委員が言われたようなことをうまく入れるとすれば、科学的サポートをする拠点、ネットワークづくりというようにですね、そういう形で組織化していくようなイメージで書いた方が波及効果もより高くなると考えられますし、おそらく本当の意味での質の高いトレーニングが実施できるのだらうと。多角的に支援しないとアスリートは育たないので、そういう拠点を作っていくようなイメージですね。それが一つの場所ということではなくて、ネットワーク化しているということでもいいのだらうと、そういうご提案かなと思います。

次に平井委員、お願いできますでしょうか。

平井委員

Ⅰの「スポーツ人口の裾野拡大」とⅡの「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」、この2つについて意見を述べさせていただきます。

基本理念のところにも記述がありましたが、人と人がつながるという理念は本当に大事なところですし、私の関連する中学校部活動でも重要視していきたいと考えています。ただ、学校という立場からすると、部活動が手放せるかどうかは今後の課題になってくるかとは思いますが、これを視野に入れた上でスポーツ振興を図っていくことが重要だと認識しております。先ほども申し上げましたが、スポーツ人口の裾野拡大というところで、学校教育という中で、戦後から長きにわたって部活動がスポーツの機会創出に貢献してきたことについては異論がないところだと思いますけれども、この5年間ですぐ変わることはないと思いますが、今後これがどんどん減ってくるのだらうなということは予想されるのであります。

合わせまして、ただでさえ人が少ない、そして機会もないというところで、その拡大というのは本当に難しいし、一部の限られた条件にあった子どもしかできなくなってくるのではないかという懸念も持っております。それに向けた施策の一つがⅡの「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」ということで、段階的な地域移行に向けた取組の推進がそこをクリアする一つの施策になってくるのかなと考えています。ただ、どこの県もそうで

すし、どこの市町もそうですけれども、具体的にどうしたらいいかが全く見えていないという状況でございますけれども、やりたい子どもが、環境がないためにできないということはぜひ避けなければならないだろうなということは強く願っております。

学校が手を引き始めていく前に、地域と連携しながら橋渡しができる環境をこの5年間の中で、ぜひとも実現していただきたいということが、私の立場でのお願いでございます。以上でございます。

来田座長

そうですね、確かに難しいですよ。この「子どものスポーツ活動の充実」のところに、少子化への対応のようなフェーズを入れるということもあるかなと思います。ただその意図としては、現状の少子化に対応するようなスポーツ活動のやり方を検討するというだけでなく、どこかで少子化する社会への対応、スポーツを通じて少子化という社会課題の解消にどう貢献するのか、これが入ってくるような形になると、今、平井委員がおっしゃったことがある程度この中にも反映されてくるのかなと思います。

その中に、地域スポーツ活動を活用するような形で、つなげていただけそうですね。ⅠとⅡをリンクするもののひとつとして、地域スポーツ活動があるというイメージですね。

それでは寺田委員、お願いできますでしょうか。

寺田委員

私は先ほど「多様な主体におけるスポーツの機会創出」のところで、多様な主体がつながって、というところで少しお話させていただいたのですが、今回5ページの「障害者スポーツの推進」のところでは、「スポーツによる障害者と地域住民との交流促進」と赤字で書かれておまして、本当にこれが進んでいくと良いなと思っています。この地域住民のイメージなのですが、一般の人たちというイメージがあるとは思いますが、その中にトップアスリートだとか、多様な人がどれだけ入っているのかなと思うと、そのあたりをもっと強調していく必要があると思います。障害のある人たちは今までスポーツは素敵とか、良いよねとか、ワクワクというのが少ない人のおそらく多いですね。だから、ワクワクするためにトップアスリートのプレーを見るとか、その人たちと手を繋いで一緒に何かやるとか、あるいは現役じゃなくても、もっとトップアスリートの人たちのセカンドキャリアをそこで活かしていただいて、障害のある方や外国籍の方とかいろいろな方とつながって、ワクワクしてスポーツを見るとか参加するといった具体的なイメージがこの中に入っていると良いなと感じています。

それから、次のページのⅣ、アジア大会のレガシー創出というところで、赤字で「共生社会の実現への貢献」という項目があるのですが、愛知県には例えばタイとかインドネシアとか、アジアの色々なところに拠点を持っている会社が、大きな会社も小さな会社も含めてたくさんあると思うんですね。だから、そういう日本国外に拠点がある企業とかそういったところも、このアジア大会に向けて一緒にムーブメントを起こして、それが継続して今後もつながっていくというようなイメージが持てると良いかなと思っています。ですので、アジア大会が控える愛知県だからこそ、ア

ジアの様々な国とつながって、こんなつながりができて、それが継続できる、その中心にスポーツがあるわけなのですけれども、そういった愛知県内だけではない、アジアの色々な国の拠点ともつながっていくというようなイメージも良いのではないかと思います。

現にトヨタ自動車なども、例えばインドネシアでは、インドネシアにあるトヨタ系の色々な企業がつながって障害者支援をしていたり、スポーツ活動を支援していたりします。現地でやっていることは日本には声が届かないのですが、今回アジア大会があるので、こうした活動が現地から日本に入ってきて、世界が大きくつながっていくと良いかなと思います。

来田座長

そういう意味では、IVのところにはほとんど企業との関わりが出てこないんですよ。だからスポーツを通じてアジアのスポーツ界の人たちがつながると同時に、産業とか企業がつながるというフェーズについて、ここの中からイメージできないので、共生社会と言ったときに、スポーツだけで終わってしまう、完結してしまう形になっていると。今おっしゃったのはそういうことかなというふうにも思います。そのあたりは入れた方がいいですよ。きっと大竹委員からもこの点をご指摘いただけるかと思いますけれども。

それでは高橋委員、お願いいたします。

高橋委員

私は藤嶋委員がおっしゃったことと全く同感ですね。ベストは新しいものをつくって、スポーツ医・科学の面からアスリート育成というか、サポートするというようなものができれば良いかなと思います。それが不可能であれば、県内にあるスポーツ系の大学とタイアップするような形で、色々なところにトレーニングセンターを作るような計画があれば良いのかなというふうに思います。そこで各競技に特化して、スポーツ医・科学的にも、トップアスリートを育成していくような形の取組ができないかなということをおもっています。

もう一点、IVのアジア大会のところなのですけれども、「競技会場・選手村等の整備」というところで、利用している者として危惧しているところは、愛知県内の競技施設が老朽化しているところが多いかなと思います。やはりトップアスリートというのは、記録が出る施設で競技をすることがひとつの喜びになると思います。アスリートのことを考えると、記録が出るとか、戦いやすい施設というのはどういうものかということをお考えた整備ということをお是非お願いしたいと思います。

来田座長

藤嶋委員が言われたところと重なる部分については少し割愛させていただいて、競技会場の整備のところは初めてご意見が出てきたと思います。トップアスリートが競技しやすい場所、記録が出る場所、それが後に市民にとっても良い場所になるというふうな循環にならないと実質的な意味が失われてしまうので、そこがやはり重要なところですよ。そういう意味では、スポーツ施設におけるユニバーサルデザインとは、そういう循環も含むと考える必要があるのかもしれないですね。

それでは、井澤委員、お願いします。

井澤委員

皆さんのお話を聞いて頭をめぐらしていたのですけれども、小島委員が先ほどおっしゃったように、地域というところがかなり強調されて入って

いる部分で、それは私も喜ばしく思っているのですが、一方で地域をどう捉えているのかというところがとても不明瞭のように感じます。

県が出す計画は、いわばトップダウンのトップの部分で、ここで書かれている地域というのは、おそらく一般住民レベルを指しているのだと思いますが、その間には市町村が当然入っていて、この県の計画を踏襲する形でおそらく市町村もスポーツ推進計画を策定していくと思うのですけれども、そう考えると、県が主導で推進していく部分と、県が方針を示して、それを各市町村が地域の実情に合わせて取組を進めていく部分、各施策の中にも二本立てで示していくことが、冒頭で伊藤委員がおっしゃったような愛知県の計画としてのオリジナリティにつながるものであり、本当の意味で地域を捉えて、それを県が旗を振って進めていこうとしている姿勢にもなるのかなと感じています。

そういう意味では、例えばここに書かれていることというのは、大きな施策が多くて結構漠然としているんですよね。そうならざるを得ない部分もあると思うんですけれども、その漠然としている部分はおそらく県主導で力強く進めていける部分である一方で、例えば“スポーツ推進委員を活用しましょう”とか、“障害のある人と地域住民との交流を促進しましょう”というのは、各市町村もしくはそこに所属する各スポーツ団体が行っていくということが予想できますので、そういった人たちに対して県としてどういった支援をするのか。各主体が自分事として捉えて、この計画に向き合っていくように書いていく必要があるのかなと感じています。

そういう意味では、Ⅳのアジア大会のところは、県が主導して、県下に対してこの大会を契機としてやっていくんだという方向性を示していただいたら良いと思いますし、一方で、Ⅴの「スポーツによる地方創生、まちづくり」も、まさにまちづくりを県としてどう捉えるのかというのはすごく重要で、“地域活性化”や“まちづくり”はすごく使い勝手の良い言葉なんですけれども、捉え方が非常に難しい。そういう意味では、何かここに書かれている“地域活性化”や“まちづくり”というのは、単発的な打ち上げ花火的に人が集まって、終わってしまうようなイメージがあるので、これは個人的な意見ですけれども、この“まちづくり”というのは、そこに住む人たちがその町を自分たちでどう動かしていくかという、動機づけになるような施策が必要になってきます。そういう意味では、“シビックプライド”みたいなキーワードが新しく入ったことはすごく良いなと思います。県が主導するところと、市町村のサポートをする方向性みたいな二本立てで、それぞれ書いていただいてもいいのかなと感じています。以上です。

來田座長

一つ一つに今、井澤委員が言われたようなことがやはりあるのかなと。県の特徴とですね、それから県の総合計画との整合性といいますかですね、スポーツの中でこの話が止まってしまうような印象になるため、どこに向かっていくのかが市民にとっても分かりづらくなるのかもしれないというご懸念かなと思うんですよね。

愛知県の総合計画は2030年までのものでしたよね。そこに書かれていることとのつながりをそれぞれの施策の中でどういう書きぶりとしていくのかという点も重要ですね。総合計画はこれを目指しているけれども、その

伊藤委員

こととの関わりでスポーツをこういうふうにするんだ、というふうな。そういう部分があると良いのかもしれないですね。

それでは伊藤委員、お願いします。

私の専門に近い「V スポーツによる地方創生、まちづくり」のところでコメントをさせていただきたいのですけれども、赤字の部分がたくさんあり、新しい試みをしてくださるといようなことで、個人的にはすごく楽しみにしています。

1つ目なのですが、「全国・世界に打ち出せるスポーツ大会の招致・育成」というところで、個人的には、スポーツ大会・イベントといっても「みる」イベントと「する」イベント、名古屋ウィメンズマラソンもありますし、そのあたりのバランスも考えながら招致・育成をしていただけると嬉しいなと思います。特に愛知県はプロスポーツチームが多いので、「みる」スポーツのイベントは結構あるのかなと思うのですけれども、逆に「する」イベントはどうなのかといったところが、私もまだ愛知に来て間もないのであまりよく分からないのですが、そのあたりのバランスは、やはり県民のニーズに応えるということにもつながってくるのかなと思います。

2つ目の自然環境を活かしたスポーツリズムというのは、すごく良いことだなと思います。スポーツ庁もアウトドアスポーツツーリズムを推進していますし、愛知県は、三河などはすごく自然が豊かだというふうに聞いています。そういった自然環境をうまく活かしたスポーツツーリズムも、これはイベントではなくアクティブなスポーツツーリズムになると思うのですけれども、そこを活かせるというのは良いかなと思います。豊かな自然環境を使ったスポーツイベントも間違いなくあると思うので、そういったところも育成していただければなと思います。

3つ目のですね、「観光政策と連携した県内周遊性」というのも、これも“コロナ禍なので県内を回りましょう”というところで、すごく今の状況と合致している施策だと思います。

あともう一つはですね、スポーツツーリズムの分野でも言われているのですけれども、元々スポーツを目的にしている観光客だけではなく、例えばビジネスで名古屋に来る人とかですよね、そういった人たちをどうやってスポーツにつなげていくのか。例えば出張で名古屋に来ました、一泊する機会があります、その日の夜にバンテリンドームで試合があります、そういったときに見に行くのかということですよ。できる限り、何かしらそういうような人を引っ張るといような仕組みを考えていくことが求められているのかなと思います。観光客だけを狙うのではなくて、せっかく名古屋という大都市で、色々な方々が集まってくるので、そういったところも考えていただくと良いかなと思います。

あとはですね、「あいちスポーツコミッション」という記述があるのですけれども、新しくできた「名古屋スポーツコミッション」ですね。プロスポーツチームとの連携というところは、「名古屋スポーツコミッション」が力を入れているところだと聞いています。名古屋はもちろん、これは愛知県の計画で名古屋のものではないのですけれども、やはりそのあたりもできるのであれば入れた方がいいのかなと思いました。

プロスポーツチームに関してはですね、一つ戻りますけれども、Ⅳのアジア大会でどういうふうにプロスポーツチームを使っていくのかという点、県内には色々な競技のプロスポーツチームがありますので、それぞれの強みを活かしていく。例えば名古屋グランパスさんだとチケッティングに関して協力しているということは聞きましたけれども、サッカーの振興を含め、アジア大会の成功に向けて名古屋グランパスさんがどういうふうに参加できるのか。田中委員の範囲になってくるかなと思いますけれども、それ以外でもバスケットボールとか野球とかもプロチームがありますので、そのあたりも考えていければ良いのかなと思っております。

最後にひとつコメントですけれども、藤嶋委員がおっしゃられた医・科学的なネットワークというところなのですが、これはⅢの「トップアスリートの育成」のみに関わるところではなくて、例えばまちづくりとか、イベントですよね。そのあたりも研究の知見はかなり蓄積されてきていますので、Ⅲだけに限らずに、全体を通して医・科学的な知見を活かして、どういうふうはこの愛知県のスポーツを推進していくのか考えていくというところは大切だと思います。以上です。

来田座長

伊藤委員のご発言をうかがうと、アジア大会の運営ノウハウをどう活用するのかということも、実はⅤの分野との関係があるとは思いますが、そこをつながりがうまく書けていないというか、見えていないような気がします。だから、アジア・アジアパラ競技大会の開催というものが中心にあって、そこでやるのがどういうふうに他の施策とつながっていくのか、というふうに施策をつなげて理解して、アジア・アジアパラ競技大会によってどのように波及効果を高めていくのか。要するに高めるべき機運というのは大会の開催機運だけではないと思うんですよね。大会を準備して開催して、その後にスポーツのムーブメントを作るための機運を醸成するというふうに理解すると、書きぶりが大きく変わってくるのかなと思うので、今、おっしゃったのはそういうこととつながってくるかだと思います。

あと、トップアスリートの支援だけに囚われない、スポーツ医・科学的知見の活用はすごく大事なことだと思うので、Ⅲではなくてどこかに外に出していただくのが良いかもしれないですね。

それでは大勝委員、お願いします。

大勝委員

私は多様な主体のスポーツ環境の整備というところが研究分野でもありますので、その視点から見せていただきました。障害者スポーツについては寺田委員からもコメントがありましたが、私が最初に見て、この「障害者スポーツの推進」といったときに、どうしても“健常者が障害のある人たちを理解しましょう”というような打ち出し方のように見えてしまいました。アンケートでもあったように、障害のある人たちがスポーツを実施しない理由もわからないし、特に理由もなく実施しない、そこへのアプローチがかなり少ないことが分かっているので、障害のある人たちにどう働きかけていくのか。彼らがスポーツと関わるようにするにはどうしていくべきなのか、ということを考えていく施策、その視点が必要なのではないかと思います。交流も大切で、理解してもらうことも重要だと思うのですが、やはり彼らがどういうふうになれば運動やスポーツに関心を持ち、

実施できるようになるのかということ盛り込んでいく方が良いのかなと思いました。

地域のスポーツ環境のところでは、県スポーツ協会の藤嶋委員がおられるので少し申し上げにくいこともありますが、総合型地域スポーツクラブに関して言えば、やはり当事者ではない人たちはほとんど知らない。学生に聞いてもほとんど知らない状況です。淀川委員のコメントにもありますが、やはり総合型の認知度が低すぎて、計画に書いてあっても、当事者や地域の人、クラブに関わっている人たちは分かると思うのですが、総合型クラブそのものがわかる人が少ないと思うので、総合型クラブのことを多くの人を知るにはどうしていくのかということを考えていかなければならないと思っています。

また、総合型クラブの登録・認証制度が今年度からスタートしていますが、思ったより申請が少なかったと聞いています。クラブには、認証されたことによりクラブがどんなメリットを得られるのかということが全く伝わっていないし、一方で書類を出さないといけない手間がある。そこがネックとなってなかなか進んでいかない。先日講師をやらせていただいて、クラブの人と直接話をする機会があったのですが、施設の確保がなかなか難しいということでした。資料にも“施設の充実・利活用推進”とあるのですが、結局個別の団体というか、特定の団体が全て使ってしまっていて、予約制度はありつつもなかなか新しい人たちが使えない状況はやはりあって。その改善が市町村ではなかなか進まないですし、スポーツ施設単体でもできない。一般の人たちが使えない状況は常にあると思います。どういうふうになれば使いたいと思ったときに使えるのか、そのノウハウを蓄積して、利用者に提供していくことが大事だと思います。

学校の体育施設もそうです。学校開放の取組はありますが、使うにはハードルが高く、施設そのものはあるけれども活用できない、使えない現実がまだまだあると思います。それをどう改善・改革していけるのかも検討しつつ、この5年間で変えていけるとよいと思います。以上です。

来田座長

今、大勝委員が言ってくださったことというのは、多分、この計画の次の計画を作るときに何をすればいいのかということを検討するという視点をこの計画に盛り込んでいくべきだという、総じて言えばそういうことだと思います。

スポーツへのアクセスが阻害されている人々の課題をまず見つけ出して、その課題解決を図るための戦略を作るということも次期計画の施策の中に入れてもいいわけじゃないですか。たとえばスポーツ施設の中長期的な利活用を展望するということを施策の中に入れるとか、この計画そのものをモニタリングして評価して課題を発見するとかですね。そういう形の、すぐに答えは出ないんだけど、次につながっていくということが書かれていても良いのではないかなということかなと思います。

これは先ほど伊藤委員が言われたような、トップアスリートの支援だけではない医・科学の活用というところにも繋がっていくだろうと思います。それでは大竹委員、お願いします。

大竹委員

お話を伺っていて、委員の皆様がおっしゃることは、本当にそれぞれご

もっともだなと聞かせていただきました。

特に伊藤委員ですね、大阪の例をよく出してくださって、大阪の商工会議所は非常に意識する相手なので、大商と名商といういい意味でのライバル関係ではあるのですが、彼らは非常にスポーツとか医療とか、デジタルも含めて一生懸命に取り組んでいらっしゃいます。そういう部分で刺激を受けておりますので、いつも触れていただいております。

私は資料1の7ページのところで何点か申し上げたいと思います。Vの具体的な施策の例として、「スポーツツーリズム」、「スポーツオープンイノベーション」、「プロスポーツチームとの連携・協働」という表現を入れていただき大変ありがたいことございまして、そのとおりだなというふうに思っております。

一方で、国の方は「スポーツ界におけるDXの推進」と施策に入っているのですが、デジタルという言葉がここには全然入っていないなと思っております。新技術という言葉はありますが、やはりデジタルはこれからの時代に絶対に欠かせないので、やはりデジタルとしっかり入れていただいた方がよろしいのかなと思った次第でございます。

それから、先ほど伊藤委員からもご発言がありましたが、当地域にはビジネスで来られる方が多くて、スポーツツーリズムっていうんですかね、ビジネスの後に何かスポーツを楽しんでいただきたいと考えております。実は観光庁さんがブレジャーという言葉でですね、ビジネスとレジャーを組み合わせた、ブレジャーの推進ということをしておられて、我々の会議所も観光組織の方とも連携しながら、仕事で出張された方がちょっと空き時間ができたときに、レジャーで楽しんでお帰りいただくと、できるだけ長く愛知・名古屋に滞在していただけるような取組を進めております。そのため、ブレジャーという言葉もご注目いただくとよろしいのかなというふうに思います。

その中で、具体的な施策として「スポーツ大会の招致・育成」と書いていただいておりますが、やはり大会を開いていただくと、見に来られる方も多い。そういう環境がある中で、愛知・名古屋のホスピタリティでおもてなしをして楽しんで帰っていただけたら、それは非常に良い思い出になるという、そういう循環が描けないかなと思っております。具体的には人が来れば必ず移動があるわけですし、訪問客へのおもてなしということでお土産があるわけですね。その場所での食とお土産という部分でのホスピタリティの向上というか、強化というかですね。そういう視点もこの部分は大事かなというふうに思った次第でございます。

それから、私どもの商工会議所、また県内の商工会議所もそうなんですけど、今、非常にビジネスマッチングに力を入れてましてですね。やはりどうしても企業ということで収益を得られるビジネスチャンスというのを意識していらっしゃるのですが、バイヤーとサプライヤーですね、売りたい、買いたいという場をお繋ぎして、面談をしていただく。そういう場をセットするのですが、スポーツの関係でもビジネスマッチングができると思うのですよね。スポーツチームやスポーツの関係団体と、地元企業との出会いの場を我々が繋がせていただくことで、お互いにとって良い形にな

るのかなと思うので、ぜひビジネスマッチングという言葉にもご注目いただけるとありがたいなと思っております。

それから、最後にこれは他の項目に入るのかもしれませんが、スポーツ選手のセカンドキャリア支援というのはですね、やはり経済界としても関わりを持たせていただけるのかなと。いわゆる大手企業を中心に進めておられると思うのですけれども、競技生活を終えられた後に地元企業でご活躍いただくという流れ、人口減少社会の中で人材の確保が非常に大きな問題になっていますので、そういった方々が他の地域に流出しないようにですね、地元でさらにご活躍いただけるような、そんな形がとれるとよろしいのかなと思っております。以上です。

来田座長

“名古屋に野球観戦に行くと、こんな面白いことがある”みたいなですね、そういう形のものでやっていかないと、スポーツだけで観戦者を増やそうとするというのは、もはや難しい時代だと思います。

それからビジネスマッチングですね。あとキャリアマッチングというんですかね。セカンドキャリアの場としての産業界との繋がり、企業との繋がりというのもすごく重要だと思います。トップアスリートの支援のあたりにもやはり関係するものとして入っていくべきことかなと思います。「キャリア形成に向けた支援」とは書いてくださっているのですけれども、もう少し具体的になっても良いかもしれないですね。

それでは小島委員、お願いします。

小島委員

私は5ページですね。IIの「子どものスポーツ活動の充実」のところがありますけれども、3つ目の丸のところにあります。先ほども少しお話させていただきました、幼少期から運動習慣を身につけることが重要であると書かれておまして、そのためということですね、「学校体育のさらなる充実を図り」と書かれているのですが、先ほどお話させていただいた4ページの基本的な考え方の中には、「地域」といったような言葉が書かれているのですけれども、ここには「地域」というようなキーワードがないので、先ほど井澤委員からは“地域が何を指すのかやや不明瞭である”といったご指摘もいただいているのですけれども、ここにも「地域」というキーワードを含めて書いていただけると良いのかなと思っております。ただ、その際には、やはり保護者の経済的な負担も配慮することが必要になるのかなとも思います。

それともう1点、「多様なニーズに応じた運動部活動の推進」のところ「部活動指導員など、スポーツ指導者の確保」と書かれておまして、これも大変ありがたいと思っております。最近の部活動につきましては、中学校における部活動の地域移行ということが大きな話題になっているのですが、高等学校の部活動につきましては、国の提言でも「義務教育を修了し進路選択した高校生等が自らの意思で運動部活動への参加を選択している実態や、多様な教育活動が行われる高等学校の中でスポーツに特色を有する学校が存在することなどの面で、中学校等とは異なる状況にある」とされていますが、ただ、「高等学校等においても、スポーツを通じた生徒の心身の健全育成や教職員の働き方改革の観点は重要であり、学校等の実情に応じて運動部活動の改善に取り組むことを望みたい」とも書かれており

ます。そうしますと、高校の部活動としましては、いかに持続可能な部活動としていくのかということが大きな課題になっております。

ここに部活動指導員と書かれているということで、先ほどありがたいと申し上げたのですが、校内の学校教員だけではなく、いかに外部人材の方に入っただきながら、部活動を行っていくのかということが大切かと思っておりますので、確保だけではなく、もう少し踏み込んだ形で書いていただけるとありがたいと思っております。以上です。

來田座長

教育現場の課題をコンパクトにまとめておっしゃっていただいたかと思えます。

ちなみにこの間、テレビを見ていると、外部の指導者に部活動の指導が移行するという話を聞いた学校の先生が、“自分は部活動指導がしたくて教員になったのに”ということをおっしゃっているという場面がありました。一方の見方からすると、“だったら教員を辞めて外部指導員をすればいいのではないか”というふうにも思えるわけですね。それで生活が成り立っていけば、教員をやりたいわけではなかった人が外部指導員という形で学校を支えるようになるわけですね。その方が本当は本人の意図と合っているということですから。そういう意味では、外部指導員が職業として成り立っていないと、実際には回らないですね。それを方策として考えていかないといけないと思えます。少し余談ではありますが、切実な課題だと思えます。今まで日本はスポーツ人材を育てることに対し、あまりにもお金をかけなさすぎたのかもしれないですね。

皆さんの専門的な観点からのお話を聞いて、私自身もすごく勉強になりました。刺激をいただきました。いくつか私の観点からお話をさせていただきたいと思うのですが、まず基本施策Ⅰのタイトルですね。「多様な主体におけるスポーツの機会創出」という言葉は、スポーツを「する」機会の創出だけに読めてしまう感じがあって、それがやはり下の施策のところにも反映されていると思うのですね。理念のところのお話をしたときにも、委員から意見が出ていたように、“多様な主体がスポーツを通してつながる機会の創出”などというふうにすることによって、「みる」ことや「ささえる」こと、そういうものも少し入れていけるような言葉にしたかどうかと思いました。

それから、共生社会のところがあるのですけれども、共生社会のところではジェンダー平等が入ってないですね。愛知県はジェンダーへの理解がそこまで進んでいないと思えますので、入れた方がいいと思えます。あとLGBTQ+の方々の差別を解消することも重要ですね、県の中でなかなか施策化しにくいテーマであっても、スポーツだから入れられるということはあるので、スポーツを通じてそのようなテーマを扱っていただきたいと思えます。

あと、アジア大会のところもですね、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会の開催、レガシー創出」というタイトルになっているのですけれども、基本理念のところの議論も併せて考えると、「アジア競技大会・アジアパラ競技大会の準備、開催を通じた基本施策の推進」などによって、他の施策とのつながりをつくることができるかなと思えます。他の部分も

ですね、「トップアスリートの育成」というと、アスリートが使い捨てのように見えるので、そうではなくて、「トップアスリートの育成と社会とのつながりをつくる」とかですね、何かそういう、言葉が少し長くなってもいいので、広がりのあるような言葉で工夫していただければ、特徴が出てくるのかなというふうに思いますので、よろしく願いいたします。

県の総合計画とのつながりをつくっていただくという話も出たと思いますが、そこにはまりきらないような、スポーツから見える課題というものを次の総合計画に反映できれば良いとも思います。施策といっても、課題の解決につながるものに限らず、課題を浮かび上がらせるような施策でも全然問題ないと思いますので、そのあたりも意識していただけたらなと感じました。

他の方のご意見を聞いて、言っておいた方が良かったなということがあれば、ぜひお伺いしておきたいと思えますけれども、いかがでしょうか。

では、藤嶋委員お願いします。

藤嶋委員

先ほど小島委員からですね、「子どものスポーツ活動の充実」のところで、“地域も”という話があって、細かい文章になってくれば入ってくるのかなという部分もありますけど、うちの方では「スポーツ少年団」という団体があり、地域の子どものスポーツ機会ということであれば、「スポーツ少年団」も盛り込んでいただけるとありがたいと思います。以上です。

來田座長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

大勝委員どうぞ。

大勝委員

1点確認ですが、6ページの「共生社会の実現への貢献」の一番下に、「外国人県民」という言葉がありますが、この表記そのものに問題はないのかなというところです。どう表現すれば意図する人々を想定できるのが難しいところではあると思うのですが、言葉自体が少し引っかかるなというところです。これは他でも使われている言葉なのでしょうか。

來田座長

これは難しいですね。“海外にルーツを持つ県民”とか書いてあるのを見たことありますけど。

事務局

県の総合計画においても、「外国人県民」と書かれており、それに合わせた書きぶりとしたところです。

(山肥田課長)

大勝委員

あと、「V スポーツによる地方創生、まちづくり」のところで、具体的にはプロスポーツチームというふうには書かれていますが、愛知県には、プロ以外でも活躍している企業スポーツチームがたくさんあります。愛知県は企業が集積していますし、企業スポーツのチーム、選手・アスリート、そこもトップアスリートの育成に入ってくるのかと思います。先ほど話題に上がった「名古屋スポーツコミッション」にはおそらく様々な団体が入っておられると思うので、企業を含めたトップチームとの連携というような書き方ができないかなと思いました。

どうしても「プロ」となると、企業チームは“私達ではない”というように見えないかな、という点が心配になりました。

來田座長

UNIVASも地域活性化を視野に入れているので、その意味では大学スポーツも入ってくるのかもしれないですね。

現状をうまく反映させつつ、ポジティブに転換させられるように、主体

を複数入れていただけると良いのかもしれないです。

それでは行政側から、この委員の発言についてよく分からなかったとか、そういうことがあれば、ここでぜひディスカッションしておく方がいいと思うのですが、よろしいですか。

事務局

(山肥田課長)

参考までにご紹介したいこととしてですね、先ほど大学との連携とか、プロスポーツや企業スポーツとの連携、あるいはビジネスマッチングといった話が挙げたのですけれども、私どもの「あいちスポーツコミッション」と、名古屋市の「名古屋スポーツコミッション」があり、「名古屋スポーツコミッション」は有料の会員で、有料ということもあり会員向けに充実した活動をされているという印象があります。一方で県の「あいちスポーツコミッション」の場合は無料で、比較的多くの方に加入していただいている、現時点で確か 280 くらいの団体の皆様に加入していただいております。具体的には、自治体やプロスポーツチーム、企業のスポーツチーム、それからマスメディア等ですね。あと一般企業にも大勢入っていただいています。

先日、スポーツコミッションの活動としてどのようなことを期待するかといったアンケートをしたところ、“交流会を開催してほしい”という意見がものすごくたくさん出ていて、対応を検討しないといけないな思っているところです。まさしくそういった交流会が、色々な分野でのマッチングの促進剤になる可能性もあるのかなと思いましたので、ここで紹介させていただきました。

來田座長

そうした事例、考え方のようなものも、5つの施策に横串を通すための方策として使っていけるかもしれませんので、計画にも入れられるといいですよ。

それでは、質の高い議論をしていただきましてありがとうございました。今日の議論につきましては、これで終了とさせていただきたいと思います。

事務局

(司会)

座長の來田様におかれましては、長時間にわたり進行をお務めいただきまして、本当にありがとうございました。

本日いただきましたご意見を踏まえて検討をさらに進め、9月に開催いたします審議会において、骨子案をご審議いただきたいと思っております。次回の策定委員会につきましては、10月下旬または11月上旬で日程を調整させていただいている途中でございますが、調整が整いましたら改めてご連絡をさせていただきたいと思っております。

これをもちまして第2回、次期愛知県スポーツ推進計画策定委員会を終了いたします。長時間にわたりありがとうございました。

以 上